

平成 30 年度第 2 回富津市創生会議 会議録 (要旨)

1 会議の名称	平成 30 年度第 2 回富津市創生会議
2 開催日時	平成 30 年 9 月 19 日 (水) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 20 分
3 開催場所	富津市役所 5 階 503・504 会議室
4 審議等事項	総合戦略実行計画の平成 29 年度事業実績について
5 出席者名	富津市創生会議委員 (9 名) 青木 一美、オノミチ 三由紀、小泉 晴信、島野 勝弘、 鈴木 裕土、武次 治幸、鳥飼 尚、森田 泰彰 山口 拓也 事務局 (9 名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 総務部長 白石 久雄、総務部次長 秋嶋 隼人、 企画課長 坂本 秀則、企画課企画係長 田内 友臣、 企画課主任主事 山田 誠、企画課主任主事 鶴岡 隆樹、 企画課主事 坂本 由紀子 事業担当課 (44 名)
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	1 人 (定員 20 人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

平成 30 年度第 2 回富津市創生会議 会議録（要旨）

発言者	発言内容
	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 新任委員紹介 青木 一美委員、鈴木 文江委員の紹介 小坂 和幸委員の退任を報告</p> <p>会議録の確定について 会長の指名した委員による承認を採用 会議録署名人は下記のとおり 青木委員、島野委員</p>
武次会長	<p>議題に入る前に、会議の趣旨及び議事進行について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>本日の会議の趣旨は、富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画のうち平成 29 年度事業について、委員の皆様からご質問いただき、主として平成 31 年度予算等、今後の事業実施に当たり、改善方策としてとりまとめるものである。</p> <p>はじめに、総合戦略実行計画について、概要を改めて説明する。 総合戦略実行計画について説明。 次に、資料 2 について説明する。 資料 2「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画平成 29 年度事業実績」について説明。 次に、議事進行について説明する。 議事進行は、総合戦略の基本目標ごとに全体で議論していただく。なお、資料 2 に事業シートの添付が無い事業についても議論の対象になる。 次に、平成 30 年度第 1 回会議の島野委員及び山口委員から頂いた意見に回答させていただく。 まず、山口委員から創生会議のほかに別にテーマを決めた会議を開催してはどうかとの意見についてだが、富津市では島野委員を講師として職員向けの ICT 勉強会を開催しているほか、空き家バンクの立ち上げの取組の中で、山口委員にお話を伺うなど、各施策について、委員の皆様のご協力を既にいただいている。今後も、会議という形式だけではなく、様々な形で随時委員の皆様のご協力をお願いしたい。 次に、島野委員から基本目標ごとの費用や人件費を知りたいとの意見についてだが、現在、個別事業に係る人件費についての確認作業をしていることから、本日は資料提供できないが作業完了後にとりまとめ送付する予定である。</p>

	<p>以上で説明を終了する。</p>
武次会長	<p>事務局の説明に対し、質問はあるか。</p>
委員	<p>特に無し。</p>
	<p>5 議題 (1) 総合戦略実行計画の平成 29 年度事業実績について</p>
武次会長	<p>それではまず、基本目標 1 について質問、意見はあるか。</p>
鳥飼委員	<p>資料 2 の 1 ページについて、市内小中学生に向けた授業等の中で富津市の文化財や歴史について触れ合える機会はあるのか。</p>
生涯学習課	<p>毎年夏に教育センターで市内の文化財について、まずは教員に知ってもらう目的で、教員向けの研修を行っている。</p>
鳥飼委員	<p>せっかく富津市には歴史、古墳等があるので、教員だけではなく、子供達に伝え、子供達が理解してくれることが後世に伝えていく、継承されていくということだと思う。</p>
教育センター	<p>生涯学習課の説明への補足として、若い先生や初任者の先生に向けて、市で行っている研修の一環として、半日かけて市内をめぐり、富津市の良さを知ってもらい子供達に広めてもらう活動を行っている。</p>
鳥飼委員	<p>私は企業に勤めているが、企業の中でも富津市の外から来ている方もたくさんいるので、富津市の良さ、歴史に触れられる機会を私たちも考えていきたい。</p>
鈴木（裕）委員	<p>資料 2 の 2 ページの富津埋立記念館について、市内の小学生に見てもらおう等、計画的に取組を行うことは考えているのか。</p>
富津公民館	<p>富津埋立記念館の来館者は、市外の小中学校の団体はかなり多いが、市内の小中学生に対しても希望があれば対応しており、併せて海苔すき体験も埋立記念館で対応できるような仕組みとしている。今年度、海苔すき体験も含めてボランティア等の活動を今後活性化させていく準備を進めている。これから市内の小中学生に対しても周知していきたい。</p>
鈴木（裕）委員	<p>以前、金谷小学校の子供達が富津埋立記念館で海苔すきを体験したところ、非常に楽しいということだったので、希望者だけではなく、是非積極的に働きかけ、施設の活用を考えて欲しい。</p>
小泉委員	<p>富津埋立記念館について、単独で海苔すき体験をしていると思うが、近くの海で実際に海苔を作っている場所があり、記念館と連携して私の</p>

	所属する新富津漁業協同組合が子供達に参加させることもできると思うので協力したい。
富津公民館	地元の漁業協同組合や地元の産業を担う団体との調整を図り進めさせていただければと思う。
武次会長	今までそういった事業はなかったのか。
小泉委員	無かった。
武次会長	そのような事業ができるのであれば是非協力して欲しい。
島野委員	資料2の全体として、記載のある施策は普通にどこの自治体でもやっているような施策から、戦略的に市として進めていきたいと思われるものまであり、色分けがあるのではないかと考えた。どれを戦略として捉えているのか。
企画課	総合戦略は、市の人口減少が著しい中で、それを抑制することを主眼とし、大きな柱を組んでいる。具体的にこれを特にとということではなく、ここに記載されている各種事業がそれに結び付いていると考えている。
島野委員	戦略的にやる施策ではないようなものがいくつかあり、その議論をするのはいかがかと思う。目標のK P Iに対して直接的に働きかけるものが総合戦略の目玉の施策になると思う。取捨選択をやっていくべきだと思う。
企画課	総合戦略は、一つひとつの積上げが柱になっている。この積上げを今回見直し、検証しているので、今回の意見は、次期総合戦略の策定に向けて参考としていきたい。
森田委員	資料2の42ページの事業は国の事業だと思うが、現在の表記だと国からの補助金は無く、富津市だけから600万円出ていると受け取られないか。予算の出所がわかるような表記にすると良いと思う。
企画課	現在のシートだと財源の内訳が分かりにくいということか。
森田委員	これだと市の予算だけを使っているように見える。
企画課	表記については改良できるように検討したい。
オノミチ委員	資料2の5ページから7ページの各公民館の講座について、各館によって利用人数や講座の内容にばらつきがあるが、市民のニーズをどのように把握しているのか。

中央公民館	市民ニーズの把握については、各館の主催講座が終わった際にアンケートを実施し、講座の要望等について調査している。
オノミチ委員	講座受講者に対する調査であり、市民全体への調査を行ってはいないということか。
中央公民館	そのとおりである。来館者へのアンケートは検討していきたい。
オノミチ委員	子育て支援に関する講座が少ないと感じた。子育て世代の母親に勉強してもらおう機会が増えたらいいと思う。
島野委員	資料2の11ページの防災関係費について、自主防災組織数が自治会数に比べて半分から6割くらいとなっている。最近、非常に災害が多いため、これで良いのか、もっと増やしていかないといけないのではないか。
防災安全課	自主防災組織の組織率については、これまで市長も発言しているとおおり、100%が目標となっている。本年度は3団体増えているが、まだまだ少ないという認識であり、様々なことを考え、少しでも増えるように取り組んでいる。
島野委員	増えない理由はこういったところにあるのか。
防災安全課	推測になるが、東日本大震災が起きた後は若干増えたが、その後、全く増えていない年もある。最近では年に2団体から4団体増えている。富津市は幸い、ここ最近大きな災害もないが、災害がないときにいかに意識を高めるかということが日頃からの課題である。
鳥飼委員	自主防災組織について意見が2つ。1つ目は、自主防災組織は重要だと思うが、設置することが目的にならないようにして欲しい。2つ目は、地域によって災害リスクが違うので、地域ごとの予測、分析、対策について自主防災の支援をして欲しい。
小泉委員	防災に関連するが、地元の消防団が夜警をしていると近所の人にうるさいと怒られることや、活動の帰りに食事しているだけで怒られたりするような状況がある。消防団に対して、少しずつ市民の意識を変えていかなければならないと思うがどうか。
総務予防課	夜警に関する苦情等は把握しているが、夜警は必要なことであるため続けたい。なお、消防団の団服を着たままで飲食はしないということで指導している。
小泉委員	消防団は新しく富津市に引っ越してきている人達にはあまり受け入れてもらえてない部分があると思うが、その方達にこれから消防団の理解を得るために、情報発信や地域の集まり等をやる予定はあるか。

総務予防課	現在の取組として、今まで消防本部及び消防署の職員が実施していた救命講習や消火器の取扱い訓練等を消防団員が指導員となり実施し、地域の防災に関するリーダー的存在として活動していただいている。
武次会長	それでは次に、基本目標2について質問、意見はあるか。
山口委員	資料2の12ページの公共交通について、質問が2つ。公共交通利用者が毎年減少している理由及びそれに対してどう捉えているのか。
企画課	昨年度策定した富津市地域公共交通網形成計画の目標として市内公共交通機関の利用者数の現状維持を掲げているが、現状の数字では利用者が減っている。どうしても利用者が減ると本数も減っていくので利用しづらくなる点もある。また、人口が減少していることで自然に利用者が減ってしまうということもある。本数を増やすことが難しい状況の中で、交通の結節や乗継ぎを良くしていくという小さいところからいくつか見直してやっていきたいと思う。
山口委員	利用者が減っているから本数が減るのか、本数が減るから利用者が減っているのか、どちらが先なのか。
企画課	JRに関しては、市の人口が増えている段階で自家用車の利用も増えており、人口が減らない段階から利用者が減っているということはあると思う。
山口委員	公共交通利用者数は委託して業者が数値を計算しているのか。
企画課	公共交通の利用者数はJR、路線バス、高速バス、フェリーの利用者の合計だが、基本的には各事業者から頂いたデータを集計している。
山口委員	業務委託費が高すぎるように見えたので、どんなところに委託しているのかなと疑問に思った。
企画課	資料2の12ページの14,990千円に関しては、交通関係の事業者4社から企画提案を受け、1社と契約した金額である。このうち2分の1の約757万円が国からの補助金であり、残りの半分が市の財源という形で支出している。
武次会長	この計画がないとバスなどの運営補助なども出ないということでよいか。
企画課	そのとおりである。この計画と公共交通会議の中で決めていきたいと考えている。
鈴木(裕)委員	資料2の12ページの成果について、平成29年度の内訳はどのように

企画課	<p>推移しているか。JR、バス、フェリーの推移を教えてください。</p> <p>昨年の数字では、JRの乗客数が1,412,915人、路線バスの利用者数が314,624人、高速バスの利用者数が45,735人、東京湾フェリーの利用者が821,230人であり、高速バスの利用が若干伸びているが、その他JR、バスは減少傾向にあり、東京湾フェリーは横ばいで推移している。</p>
鈴木（裕）委員	<p>目的に持続可能な公共交通網を形成するとあるが、利用者が減少傾向にあり、目標を達成するための施策で既に出てきているものはあるか。</p>
企画課	<p>目標としては5箇年で利用者の現状を維持するという目標を立てている。その中で公共交通の利用の利便性を上げる点においては、富津市地域公共交通網形成計画の中で16事業掲げている。この16事業については、市だけで利用者を増やし、利便性を上げることは当然できないので、交通事業者、地域住民、そして各種関係団体と連携しながら利便性を向上させていくことを考えている。</p>
鈴木（裕）委員	<p>市外から富津市にどうやったら来やすくなるかを考えている。地域経済を活性化するために市外から呼び込むということも重要であると認識して欲しい。</p>
武次会長	<p>市外の方は主にどういった要望、意見を持っているか。</p>
鈴木（裕）委員	<p>館山中央交通が運営するタクシーが無くなってしまったが、私がボランティアで金谷の観光案内をしている際、観光客からタクシーの配車を依頼されてしまい困ってしまった。</p>
企画課	<p>館山中央交通は5月の中旬で事業を廃止するというので、私も直接連絡を取り、その事業を他の会社が引き継ぐのか、どういう形になるのかを伺ったところ、事業自体は継承しないということだった。近くの鋸南タクシーが金谷の方でも利用があれば出向いていると伺っている。現在は、鋸南タクシー等と連携を図り利用しやすい形を追求できればと考えている。</p>
鈴木（裕）委員	<p>鋸南タクシーも台数が非常に少ないので、お願いしても無理だということがあるので、今後どうしたらよいか考えている。</p>
オノミチ委員	<p>私の仕事の関係で支援している佐貫地区の人のために、支援センターへの移動手段を検索したところ、非常に少なかった。案内しようにもできない現状があるということ報告したい。また、来年度、天羽地区の天羽老人憩の家に子育て支援センターが開設される予定だが、そこも車がないと行けないような場所であるため、そちらの移動手段の検討もして欲しい。</p>

島野委員	<p>勉強のために教えて欲しいが、都市計画マスタープラン見直しとはどういうものか。今の都市計画マスタープランを私たちが勉強することができるかというのが1点目の質問。2点目の質問として、基本目標2の基本的な施策の方向③について、移住者へのPR、移住者受入の環境整備という観点でPRをするということだが、どういう取組をしているか教えて欲しい。</p>
都市政策課	<p>都市計画マスタープランについては、本来、都市計画区域内のまちづくりの方針を示すものであるが、当市における都市計画マスタープランは、市全体のまちづくりということで平成29年3月に策定している。特徴は、市を4つの地域に分け、それぞれの特徴を活かしたまちづくりを進めていくという方針を示している。データは、都市政策課のホームページに掲載している。</p>
企画課	<p>移住者へのPRといった施策については、現在行っていないが、空き家バンクを年内に立ち上げて、ホームページなどで広く公開し、少しでも富津市への移住希望者に活用してもらいたいと考えている。なお、都内に出向いて富津市のPRということは行っていない。</p>
オノミチ委員	<p>事例として紹介するが、近隣市では、移住希望者でヨガ講師や手に職のある方を市が臨時職員という形で雇用し、その方に無報酬で支援センター等での講座を持っていただく取組がある。また、南房総市では、移住したい方の1泊2日の体験ツアーがある。</p>
企画課	<p>市でも移住者へのサポートも含めて、今年7月から地域おこし協力隊の隊員を1名委嘱し、現在活動していただいているが、若い人にも結婚して富津市に来ていただくために、婚活活動も含めて進めていきたいと考えている。</p>
オノミチ委員	<p>移住ということを考えたときに、富津が好きで住んでいただくことを考えると、やはり結婚して子供を産み育てるというのはどういうことをしっかり考えていかなければと思う。</p>
山口委員	<p>移住について意見が2つ、質問が2つある。1つ目の質問として、市は移住にどの程度力を入れているのか、また、意見として、移住者がいるからといってお金が入るかといえばそうでもないので、極論、力を入れないならばそれはそれでいいと思う。どれくらい力を入れているのかによってアドバイスの内容が変わるため伺いたい。</p>
企画課	<p>移住者は、富津市で仕事、生活をするようになるため税収は増えると考えられる。また、地域コミュニティも移住者の影響で発展していく場合もあると思う。今、金谷で若い方の移住が目立っていることは良いモデルだと思うので、金谷地区の活動は参考にしていきたい。</p>

山口委員	次に、私は、引越と移住は違うものと考えている。引越は、自分の身を置くという感じのものであり、移住は、その街、その市に身を置くという意識で自分の体を動かすものと思っている。金谷については、引越ではなくて、金谷が良いという形で移住している人は多いが、富津市に対して移住しているという意識はあまりないと思う。また、引越は、街に対する愛着がない。2つ目の意見として、引越ではなく移住をさせるための施策を打ってもいいと思う。具体的には、移住者に少額の移住手当を支給することはどうか。また、質問として、移住者獲得の予算はどの程度あるのかを伺いたい。
企画課	移住定住に関しては、移住定住促進事業として定住奨励金を予算組みしているが、これは平成33年度までの事業で、その他に大きな予算は組んでいない。
山口委員	移住者が増えると税収が増えるので、市が損しない範囲で、移住者を増やすことに力を入れた方がいいと思う。どのくらいの予算で移住者を増やすことができるかについてだが、私は今、いすみ市とクラウドワークストックというものを作り、在宅で仕事をしたい人向けにその仕事を紹介するという事業に取り組んでいる。いすみ市は、仕事の仲介手数料を負担するが、一人当たり年間30万円を20人分ということで600万円の予算を組んでおり、30万円で移住者が1人増えるという計算をしている。参考にして欲しい。
森田委員	富津市で農業をやりたくて移住してくる人の相談を何件か受けている。農地は知り合いがいたので紹介できたが、住む場所も探さなければならない。一刻も早く空き家バンクを作って欲しい。
青木委員	資料2の17ページについて、富津市は、他市に比べて公園が多いと思う。公園が多い市はきれいな街というイメージがあり、すごく良いことだと思う。ふれあい公園整備事業のテニスコート利用者の満足度が96.6%ということだが、老朽化に対する改修計画は具体的に決まっているのか。
都市政策課	昨年度、ふれあい公園のテニスコートを改修し、今年度は陸上競技場のトラック部分の改修工事を発注している。ふれあい公園も完成から30年経ち、各施設が老朽化している。改修費用の平準化及び長寿命化が図れるように検討していきたい。
島野委員	先ほどの山口委員の意見の補足として、在宅での仕事について、移住者支援という側面もあると思うが、最近は働き方改革、女性の社会進出の観点から、通わなくても仕事ができるという環境にシフトしていくことを推進するというのは悪くないと思う。元々、全体的に仕事が少ないような気がするので、仕事を増やすという意味で検討されてはどうかと思う。

武次会長	<p>ここで休憩を挟み、基本目標 3 の議論に移る。</p> <p>(休 憩)</p>
武次会長	<p>会議を再開する。基本目標 3 について質問、意見はあるか。</p>
鳥飼委員	<p>資料 2 の 37 ページの給食について、給食を食べている子供達に対して、今日の給食に使っているものを認識させる、知らせるための取組は何かしているか。</p>
学校教育課	<p>児童、生徒に対して、富津市産のものはどうだったかを聞くなど、直接的な取組をしているというところまでは聞いていないが、教育の中で栄養士が学校を回り授業を行っているということは聞いている。</p>
鳥飼委員	<p>せっかく地元のもの、近所の人が汗水流して作ったものを食しているということを、もっと子供達に分かってもらえれば、郷土愛につながるのではないかと思うので、工夫して欲しい。</p>
オノミチ委員	<p>2 点話を伺いたい。1 点目は、切れ目のない子育て支援の実施について、子育ての窓口一本化ということだが、国から平成 32 年度までに地域の実情を踏まえて子育て世代包括支援センターの整備が求められているが、子育てするお母さんがここに来れば大丈夫と思えるような窓口にしていく方向性があるか伺いたい。また、ブックスタート事業の成果、お母さんたちからどのような反響があるのかについて伺いたい。</p>
子育て支援課	<p>切れ目のない子育て支援について、どのような取組をするのかと同時に、どのような組織体制で進めていくのかということも課題になってくる。近隣市の先進的な事例も参考にし、より望ましい形をどのように作っていくべきかを考えていきたい。</p>
生涯学習課	<p>ブックスタート事業について、4 か月児健診の終了後に時間の空いた親子に対して読み聞かせを行っている。まだ言葉の分からない時期の子供に対して、絵本を読み聞かせするということに経験のない親もいるが、子供が笑ったり目を見開いたり手を伸ばしたりと顕著な反応を見せることが多く、親も喜んでいる。読み聞かせ体験をしてもらい、その場で絵本を配本することもセットで実施している。評判は上々である。</p>
オノミチ委員	<p>配付物は本だけか。事業の趣旨などをまとめたものは一緒に配付していないのか。</p>
生涯学習課	<p>配付物は本の他に、子育てにおける本の読み聞かせの効果、子供の成長への影響等をまとめたパンフレットや、司書が選書した 0 歳児から幼児向けの本をまとめた資料を配付している。</p>

山口委員	資料2の32ページの子育て支援について、ベビーシッターの導入について推進しているか。金谷の保育所は子供が増えて定員に達しており、子供を預けることができない状態になっている。
子育て支援課	現在のところ、ベビーシッターの導入については手を付けていない。金谷保育所の入所については、移住者の皆様の利用が増えており、その中で低年齢児の受入れについては保育士の配置基準が厳しく、受入数が現在達してしまっている。継続して保育士を募集し、確保できた段階で需要の高い保育所に配置をさせていただく。
山口委員	「キッズライン」というベビーシッターと母親をマッチングして、個人でベビーシッターをしている人に直接依頼ができるウェブサイトがある。在宅での仕事をマッチングさせるクラウドワークスと同様に、市で手数料を負担することで、ベビーシッターが働きやすくなり、利用者としても手数料がかからないなら使ってみようということになる。何よりそれを行っている市が1つもないため、取り組んではどうか。
青木委員	資料2の35ページの特定不妊治療費助成について、平成29年度に助成件数が17件で、出産に至った人数が3人と効果がとても高く、良い事業だと思う。事業のPRはどのように行っているのか。また、PRは病院や雑誌で行っているのか。
健康づくり課	現在は、ホームページで周知している。この事業自体が千葉県の助成事業と併せて実施している制度であり、県事業の案内が指定医療機関や保健所に置いてある。そこを訪れた方にこの事業を知っていただき、県の助成の対象になった方が市事業の案内を受けるといった流れになっている。今後、広くPRできるよう周知方法を検討していきたい。
島野委員	基本目標3については、非常に良い取組をしていると思った。特に子育てについては手厚く実施していると思える。しかし、子供が大きくなったときに富津市は何をしてあげられるのか。たとえば資料2の36ページに学力向上推進事業とあるが、こういう取組をもっと実施してもいいのではないか。特に職業について、私が子供の頃は、データサイエンティスト、ウェブデザイナー、ファイナンシャルプランナーという職業が無かったが、今ではそのような職業に就く人が多くなっている。私自身の思っていることとして、自分たちの子供の世代は、自分たちが知らない名前の職業に就く子供が多くなると思う。その場合、子供にいかに関心を広く持ってもらうかという点では、職業についての教育というのはとても大事であると思う。次の世代の人達にどういった教育が必要かを考えてもらえるといいと思う。また、移住者にとって、やはり子供の教育が充実している自治体は重要なポイントだと思う。
教育センター	将来の職業について、学校では自分が将来どんな道に進んだらいいのかというキャリア教育に力を入れている。また、今年度、教職員の夏季

	<p>研修で新富地区の工場地帯を見学し、まずは先生にそういった会社や職種を知っていただき、広めていくということも実施している。英語教育についても、小学校に英語科が導入されるので、力を入れるべく、今年度に指導のモジュールを導入し、また、中学校では英検の受験についても推進している。</p>
島野委員	<p>例えば、プログラミングや英語がこれから教育課程に入ってくる中で、十分な先生が富津市で確保できるのかが心配である。また、保護者の理解も必要なので、生涯学習の観点で保護者への啓発も実施すると思う。</p>
山口委員	<p>資料2の37ページの給食の部分について、富津市の産物使用割合が17%ということだが、具体的に富津市の何を使っているのか</p>
学校教育課	<p>17%は金額ベースであり、内訳としては、地元市内の指定の米を使用しており、その金額が大きい割合になっている。</p>
山口委員	<p>プロモーションの仕方でもっとプラスに働くと思う。いすみ市ではいすみで作った「いすみっこ」という米を全ての小中学校で使っていることが話題になった。学校でも使っているということで家庭でも使ってみようとするのではないか。もう少し富津市産のものを使っているアピールができるのではと考える。</p>
武次会長	<p>米以外のものはないのか。</p>
学校教育課	<p>地元産の菜花などの野菜、味噌などの加工品が入っている。</p>
オノミチ委員	<p>資料2の32ページの放課後児童クラブについて、市内の放課後児童クラブはとても充実してきており、利用者も増えたと感じるが、運営主体については、保護者会が運営している。市からの補助金により運営しているが、多額になってきている。また、保護者での運営も限界を感じているが、これから公設で一本化していき、そこで支援員を雇っていただけるとありがたいが。</p>
子育て支援課	<p>これまで、市内の学童保育は全て民設、民営で運営していただいているが、需要の増加とともに運営の困難さが高まっているため、保護者会で運営していく限界が近づいていることについては、いくつかの学童保育から話を伺っている。現在、当課と学童保育クラブの保護者会で定例的に話す場を設けているが、もしも限界といったことであれば、近年ご説明させていただいているように必要に応じて公設、または公営なのか民営なのかという検討も今後進めていきたいと考えている。</p>
武次会長	<p>それでは次に、基本目標4について質問、意見はあるか。</p>

鈴木（裕）委員	資料2の40ページのふるさと納税の使途について、実際に集まった寄附金を富津の産業、観光が盛んになる事業などに充てているのか。その流れは分かるようになっているのか。
企画課	使途については、今月末を目途にホームページ等で具体的な事業名とともに公表させていただく予定である。
鈴木（裕）委員	もう実際に使っているのか、それともこれから使うのか。
企画課	平成29年度の寄附金については、全てを平成29年度事業に使うのではなく、その一部については平成30年度事業に財源を充てている。具体的には、約3億5,400万円のうち9,000万円を平成30年度事業に充てており、残りを平成29年度の事業に充てている。
鈴木（裕）委員	私も関わる観光協会の予算が毎年少なくなり、厳しい運営を迫られているので、今後も使途を考える際には、是非検討していただけるとありがたい。また、総務省から返礼品の返礼割合を3割にするように指示があったと思うが、3割にするタイミングを聞きたい。もしくは既に3割になっているのか。
企画課	本年6月29日をもって、返礼割合は3割としている。
鈴木（裕）委員	来年度の寄附額は増えるのか。
企画課	寄附については、寄附者の動向によるところが非常に大きく、また、単純に返礼割合によって寄附額が減る、増えるといった結果につながるものではないと認識している。国の通知に従って、現在、富津市では返礼割合を3割としている。この3割を守る中で富津市の返礼品をPRしていき、寄附者から寄附をいただけるような取組をしていきたい。
鈴木（裕）委員	返礼品をたくさん用意して寄附を増やすのも大事だと思うが、寄附の形態も変わってきている状況もあるため、富津市としての重点事業などに寄附者が応援できるようなものができれば、寄附の裾野が広がるのではないかと思う。
小泉委員	女性の雇用について、夏場に私の所属する新富津漁業共同組合で子育て中のお母さん6人くらいにアルバイトで来てもらっているが、近くに親兄弟がいる人は子供を預けて来ることもできるが、お嫁に来て近くに頼れる人がいないような人は子育てと仕事の両立は難しいようだが、市で何か考えていることはあるか。
子育て支援課	短期的に子供を預かって欲しいという需要は把握している。富津地区の保育所は定員に達してしまっている保育所が多く、なかなかピンポイントの受入れが難しい。もう少しエリアを広げて大貫地区には受入れが

	<p>できる保育所もあるので、他の地域ではどうかとご案内いただくことをお願いしたい。一時保育の利用についても、毎日の利用は難しいが保育園の行事がなければ受入れも可能という保育所もあるので、当課に相談して欲しい。</p>
森田委員	<p>地域の実情に応じた規制緩和について、農業委員会で農地取得の下限面積を1反まで下げたが、これがいつから実施されて、どのように周知を図っていくのか。</p>
農林水産課	<p>現在、ホームページ及び広報ふつつ9月号で周知している。下限面積の緩和については、平成30年7月13日に農業委員会で告示している。</p>
森田委員	<p>富津市で1反から農業ができるということをもっとアピールして、農業を一緒にやる仲間が増えてくれると嬉しい。</p>
武次会長	<p>1反のところは結構多いのか。</p>
森田委員	<p>まだそれほど多くない。</p>
山口委員	<p>資料2の39ページの商工関係について、創業支援として商工会が実施する創業セミナーでは、ウェブに関する講習もあるようだが、若者はウェブが得意な方が多いのもっと別の形でやることも必要ではないか。もう1点、はかりめフェアについてはとてもいいフェアだと思っているが、来場者やこのフェアでどの程度人が集まったのか。</p>
商工観光課	<p>商工会に対する育成補助金については、568万8千円支出しているが、商工会には富津市の創業支援事業計画に基づき、創業支援セミナーを前年度から実施していただいている。これと併せて、今年度から事業承継ということで2代目育成のためのセミナーを実施している。はかりめフェアについては、人数等について把握できていないため、調べて答えられるようにしておく。</p>
山口委員	<p>フェアについて、いすみ市では「イセエビまつり」を市が500万円くらいかけて実施しており、祭への出店店舗には1日300万円くらいの売上がある。来場者はだいたい1,000人から2,000人くらい。500万円の予算でこれだけ売上があるならいいと思う。はかりめフェアも祭として週末限定で実施すると人が集まるのではないか。</p>
島野委員	<p>雇用ニーズや就労支援について、在宅でできる仕事も増えているので市としてうまくバックアップを考えて欲しい。企業誘致の考え方も標準的なやり方でやっていると思うが、少し色を付けて、国の実証実験のようなものを市に持ってくると実証実験の経済効果だけでなく、マスコミとその企業がそこで接触することもできる。最近では、大規模の工場を誘致するのは難しいので、製造業系のベンチャービジネスの工場を早め</p>

<p>商工観光課</p>	<p>に青田刈りのように誘致してみるとその先につながる可能性があると思う。また、観光について、外国人にとって使いやすい公共交通になっているか。どういう取組をしているか。</p> <p>インバウンドに関する公共交通網の検討については、まだできていない。ただ、外国人観光客については、補助金制度を利用して英語表示の観光看板を用意して毎年各地に配置している。インバウンドについては、正確な数字ではないが市内の宿泊業者に調査したところ、調査開始の平成 26 年度は外国人宿泊客が 81 名、平成 29 年度では 436 名となり、調査開始から約 350 名増加している。外国人の対策として、おもてなしの英語表示の案内表示を付けるなど、各宿泊業者にお願いして対応している。</p>
<p>島野委員</p>	<p>外国人だけでなく、最近は体験型の観光があるので、強化すると思う。自分たちが普通だと思っていることが観光資源になる可能性がとても高い。</p>
<p>山口委員</p>	<p>資料 2 の 42 ページの農業次世代人材投資事業について、私は知らなかったが 1 回 150 万円ももらえるのはお得だと思う。どのような PR をしていたのか。</p>
<p>農林水産課</p>	<p>この事業については、45 歳以下で地域農業を支える経営体であることや、就農 5 年後に農業所得が 250 万円以上、従事日数が 150 日となるような就農計画を立て、認定を受ける必要がある。希望者は、千葉県や本市に相談に来るが、平成 29 年度の認定新規就農者数は 1 名である</p>
<p>山口委員</p>	<p>どんな広報や情報発信をしたのか、移住希望者や問合せに対して周知したのか。</p>
<p>農林水産課</p>	<p>広報やホームページで周知している。</p>
<p>山口委員</p>	<p>気付いてない人が多いのではないか。この制度を利用するのは地元の人、もしくは移住者だと思う。この施策は移住者向けで、千葉県、富津市で農業やりたい移住者に対して効果がある施策だと思う。移住者支援と協力して、年間 150 万円支給することをアピールすると思う。地域おこし協力隊はどの地域も集まるが、それと変わらない金額であり面白みがあってもいいと思う。</p>
<p>森田委員</p>	<p>農業を志す人は、この補助を結構知っている。年間 150 万円もらえるから良く感じるが、実際には 2 年準備型とその後 5 年間経営開始型というものがあり、その間に農業をやらなければならない、5 年後に 250 万円以上の売上がなければ返却となるため、結構ハードルが高い。</p>
<p>武次会長</p>	<p>この 250 万円というのは証明が必要か。</p>

森田委員	青色申告で出さなければいけないと思う。
農林水産課	実際には地元の後継者が利用している場合が多い。
武次会長	それでは基本目標 1 から 4 について他に質問、意見はあるか。
島野委員	市は地域おこし協力隊を委嘱したようだが、今どういうことをしているのか。
企画課	本年 7 月から男性 1 名を委嘱し、現在は、イオンモール富津の 2 階にある NPO 法人オール富津情報交流センター（アフィック）とともに、活動している。移住定住関係の情報発信の活動を今は中心に行っている。
島野委員	ネット上で、地域おこし協力隊の情報を見ていると、うまくいっている例とうまくいっていない例が極端であるように見受けられる。うまくいっていないと結構酷い書かれようなので、かえって市のイメージが下がったりしないかと思うので、是非支援してあげて欲しい。
武次会長	以上をもって議題（1）を終了する。 事務局から何かあるか。
事務局	特に無し。
武次会長	次に議題（2）その他について、事務局から何かあるか。
事務局	特に無し。
武次会長	本日の内容は、会議録の確定をもって、取りまとめさせていただく。 委員の皆様からいろいろな提言がありましたので、会議録をよく確認し、取り入れられるものはどんどん取り入れて欲しい。 それでは、以上をもって全ての議題を終了する。 それでは、進行を事務局に返す。
事務局	ありがとうございました。 閉会に当たりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。
小泉副市長	本日はご多用のところ長時間にわたり、活発な議論をしていただきありがとうございました。今後も市民が幸せを感じられるまちを実現するため、総合戦略の着実な実行に取り組んでまいりますので、引き続き委員の皆様方にはご協力のほどよろしく申し上げます。
	(終了時刻 午後 4 時 20 分)

以上